交通死亡事故ゼロ　無火災　一〇〇〇日記念入賞作文

交通安全

月潟小学校五年　薄田直美

このごろの月潟村の人たちは、死亡事故をおこさないようにがんばっていますが、今日、七月十五日、ほかの村の人が、大別当のお寺のカーブで事故をおこし、けいさつがしらべにきていました。

げんいんは、大まわりしなければいけないのに小まわりして、前からくる車とぶつかったのです。自分が事故にあったわけでもないのにこわくなりました。

わたしのお母さんも、一度ぶつかったことがあります。

そのときは、相手が後ろをかくにんしないで急にバックしてぶつかったのです。わたしも車にのっていたのでこわかったです。なみだが出そうになりました。

やっぱり交通ルールを守ってもらいたいです。わたしも大きくなったら気をつけようと思います。

また、小さい子のとびだしで事故がおこることがあるそうですが、わたしはけいけんがないし、とびだして事故にあったことをあまりきいたことがありません。それはたいへんいいことだと思います。

わたしは、そろばんにかよっています。ほとんどが、学校のかえりで、家へかえると七時すぎになっていることがあります。冬になると、一度家にかえってからそろばんに行きますが、自転車が乗れないから、かえりは真っくらになってしまいますので、事故をおこさないように気をつけています。

わたしは事故をなくすためぜったいこの五つのことは、みんなにまもってもらいたいと思います。

一つ、人間、車、自転車……とびだし！

二つ、車……スピードのだしすぎ

三つ、車、自転車、人間……しん号むし

四つ、自転車……二人のり

五つ、自転車……手ばなしうんてん

月潟村は死亡事故ゼロ千日、

事故に気をつけている

月潟小学校五年　小山彩子

月潟村は交通死亡事故ゼロ千日をむかえる。これはとてもよいことです。

月潟村の人々みんなが事故に気をつけ、交通ルールを守って来たからです。月潟村の人、だれかが事故にあって死んだらたいへんです。どうしてかというと、明るく、親切な人、やさしい人がへってしまうからです。月潟村の人々はとてもよい人ばかりです。

私は死亡事故ゼロ千日のことを聞いてびっくりしました。「すごい、これはみんなが気をつけているからだ」と思った。だから私も事故に気をつけています。命は一つなんだから、大切にしなければなりません。失えば一生のおわりです。

私は、こんな事故をおこしそうになりました。友だちと遊んでいて、車庫のところからすごくりっぱだと思います。

これからも事故を、おこさないようにしましょう。

月潟村の人々みんなで事故がないのだと思います。私も事故をおこさないように注意してゆきたいと思います。

死亡事故ゼロが二千日、三千日と続き、月潟村の事故がなくなってゆくといいなあと思います。家の人、学校の先生がた、村長さん、月潟村民全員がねがっていると思います。

また、車にのっている人は、こういうことなどをよくまもってもらうと死亡事故ゼロがもっと続くと思います。

一時てい止、車がくるかこないかのかくにんなど、自転車にのっている人なら、左右のかくにん、一時てい止など、たくさんのマナーがあります。

これをまもるのはたいへんですけど月潟村の人々はまもってきたので死亡事故ゼロ千日がたっせいできたのです。

これからも事故をなくし、明るい月潟村になるよう私はねがっています。

村の願いはもうすこしで・・・・・

月潟中学校一年　和平佳奈子

私は、自転車で転んでケガをしたことがある。人院するほどの大きなケガではないがそれでも、五針ぬった。私は運がよかったのだ。もう少し中側を通っていて転んだら、車にひかれていたかもしれない。そしたら五針どころではすまなかったはず。それ以来私は、もうこんな経験はしたくないから気をつけている。

私は、事故の現場を見たことがある。その時はこわくて足がガタガタとふるえていた。

それが私の知人や、私自身だったら……と想像したこともある。考えるだけで、冷汗が出てしまう。とり肌もたってくる。考えるだけなら、身に危険はないけれど、実際ならどうなっているだろうか。

それから、シートベルトをしなくて、急ブレーキをかけられたことがある。その時、前のいすに頭を打ってしまったこともありました。

月潟ブルボンの人は、車に乗っている時、きちんとシートベルトをしている。ぶつかっても軽くてすむかもしれない。とても良いことだと思う。

そんなふうにして、自分を守り、村の〃交通死亡事故ゼロ〃に協力してるんだなあと思った。

八月十日で〃交通死亡事故ゼロ千日達成〃になる。そのため、村の人々は、いっしょうけんめいに、よびかけている。そういう村中の人々の願いをこわさないように、交通のマナーを守って、気をつけなければいけない。千日を達成したら、二千日、三千日へと、記録をのばしていけるようにみんなで、気をつけよう。

こわい火事

月潟小学校四年　長沼喜一

ぼくは、一度も火事にあったことがありません。

月潟村は、千日も火事がないからすごいと思います。村の人がいつもいつも、心がけているから千日も火事がなかったんだと思います。

ぼくの家では、いつも火に注意しています。ぼくは、ふろ場の火や、ゆわかしきの火が消してあるか、調べてからねます。それなのに、ちょっと前に、ねたばこをお父さんがしてしまいました。そして、ジュウタンをちょっとこがしました。でも、火事にならなくてよかったです。

ぼくは、いつも、家が火事になったらどうしようと思っています。火は、いろいろな物をもやしてしまいます。木や紙、そして家も、もやしてしまいます。家には、学校の勉強道具や、お金や食べ物などのたいせつな物があります。お金が残っていれば、何か買えるんだけど、お金がなければ、どうしょうもありません。だから、お金は火事になっても、すぐ持ってにげられる所においておけば安心です。

消ぼう車のサイレンをぼくは、たまに聞きます。中之口村や白根市などで火事はあるんだけど、月潟村には火事が千日もないのです。

月潟村には、消ぼうだんがあって二ケ月に一度くらい中学校のグランドで練習をしています。

ぼくは、消ぼうだんの人たちはたいへんだと思います。千日も火事がなかったのは、いつも、練習したりして火事の時にそなえていたり、空気がかんそうしたりすると、村の中をまわって、火事に注意するように言ってくださったからだと思います。

これからも、いっしょうけんめいにはたらいて、火事を少なくしてほしいです。

ぼくたちも、火には注意して火事がない日がもっとつづけばいいと思っています。

「火災」についての自分の身のまわり

月潟中学校三年　友坂晴美

私の父は、消防士をやっていた。しかし、父はそれが本職ではないので、消防士というよりも村の消防団に入っていたといった方が、正しいと思う。

たまたま夜中に、火事があった時なんか、今まで、たか鮮をかいて寝ていたと思ったのに、火事のサイレンを聞くとすぐ飛び起き、電話で火事現場を聞く。そして、すばやく着がえて飛び出していくといったような様子だ。

私は、それからの父がどのようなことをしているかわからないが、火事を消して家に帰って来た時は、ビショビショに服がぬれている時がある。それだけ火事を消す仕事はたいへんなのかもしれない。

私は、小さい頃から、消防車のサイレンを聞くと、自分の家が火事になったわけではないのに、なぜかおびえてしまうくせをもっている。自分でもよくわからないのだが、なんというか、胸のあたりが「ドキン、ドキン」と音を立てて自分の耳にまで聞こえてきそうな感じになってくるのだ。

月潟村という所は、そんなに火事の多い村ではないと思う。私は、近所で一度火事になっている家を見たことがある。その家の火事の原因というのは、火がついたままのストーブに石油をついでいて、石油がこぼれ、それに火が燃えうつったということである。

私の家も、ストーブの火を消さずに石油をつぐことをよくやる方である。

「あぶない、危険だからやめた方がいい」といっても、めんどうなのでまったくやめる気配はないのだ。ちょっとしたことで、何m²も焼く大火災になってしまうというのに。

やはりこうした「火災」などは、一人ひとりの注意によって、防げることではないかと私は思う。